

R6 学校関係者評価 結果 2月21日実施 学校評議員（5名）

No.	項目	A	B	C	D	平均
1	学校教育目標、目指す児童像、目指す教師像は適切である	3	2	0	0	3.6
2	安心・安全で楽しい学校生活が送れるよう児童一人一人を大切にした教育活動を行っている	3	2	0	0	3.6
3	「かしこい子」を踏まえた教育活動を行っている	3	2	0	0	3.6
4	「やさしい子」を踏まえた教育活動を行っている	3	2	0	0	3.6
5	「たくましい子」を踏まえた教育活動を行っている	3	2	0	0	3.6
6	地域と連携し、信頼される開かれた学校づくりを行っている	2	3	0	0	3.4
7	保護者や児童アンケート、教職員による評価の結果を踏まえた経営改善を行っている	2	3	0	0	3.4
8	保護者や児童アンケート、教職員による評価の結果を踏まえた次年度へ向けた改善方策（案）は適切である	2	3	0	0	3.4

4→そう思う 3→ややそう思う 2→あまりそう思わない 1→そう思わない

◆アンケート自由記述◆

□学校評議員は、年に数回しか来校しないので、評価を点数で表すのは難しいと思います。児童・保護者は数値化してよいと思いますが、学校評議員は、出た意見等をもって評価とすればよいでしょう。（市教委で数値化を求めていれば仕方ありませんが。）

<協議・ご意見>

□挨拶の取り組みは素晴らしいと思う。挨拶がよいという判断はどこですのか。他校と比べているのか。大きな声でしたらよしではない。挨拶をしたか、しないかではなく、挨拶は気持ちである。挨拶はコミュニケーションツールなので、気持ちが大切である。中川地区、千町地区は登下校がバスのため会話も挨拶も少なくなっているのではないかな。バスに乗る時、降りるときは、挨拶ができていますのか。

□読書は、環境を整えていく。夷隅地区は本の飢餓地帯。県でも読書県になるように取り組んでいる。新刊を増やすのはどうか。児童は新しいものに興味が沸くと思う。本の寄贈を、学校だよりで地域に告知をしてみたらどうか。地域の教育力を生かして、「読み聞かせ」をやってはどうか。読み聞かせは、途中まで読んで、続きは…。という方法をする、と、興味が沸くのではないかな。

□ICTの充実について。タブレット学習は進んでいるか。SOTOBO ISUMIさんの効果はどうか。子供の遊び方が今は違ってきている。オンラインゲームの危険性についてはどうか。

□長生地区は部活動の大会がなくなり、先生方の働き方がよくなったと聞いている。夷隅地区はどうか。

□長期休みの課題は、最低限のものを出してほしい。

＜今後の改善方策＞

次年度に向け、以下のような取り組みをしていきたいと思ひます。

「かしこい子」については、児童が自らの課題をもとに主体的に学びに向かえるように、個に応じた学習が進められるよう丁寧な指導を行うとともに、家庭と連携して自主学習の充実に努めます。また、「本に親しむ」活動の充実に向け、ボランティアの協力を得ながら、児童が本をたくさん読んでいる実感がもてるような取り組みを行います。図書館の蔵書数については、市教育委員会の協力を得て、5か年計画で4000冊の増冊を予定しています。児童の興味関心の高い本を優先して購入して参ります。

「やさしい子」については、年度当初に比べると、地域の方々やバスの運転手さん、来校者に対しての挨拶ができるようになってきています。心のこもったコミュニケーションがとれるよう、引き続き指導して参ります。また、今年度から取り組み始めた、縦割り活動を中心に、自己有用感を高められるよう活動して参ります。

「たくましい子」については、ロング昼休みを確保するとともに、家庭と協力し日頃から健康な生活を送ることができる体力の向上に努めます。また、心身ともに健康で過ごせるよう引き続きいつでも相談でき、安心して過ごせる環境づくりに努めます。

「安心・安全で開かれた学校づくり」については、保護者、地域の協力をいただきながら、安全な登下校、整備された教育環境を維持していきます。

I C T教育環境の充実に伴い、情報モラル教室を毎年行っています。さらに、地域の特性をいかした学習や教育活動の推進とともに、積極的発信により保護者・地域の皆様と情報を共有し、児童一人ひとりが安心して楽しい学校生活が送れるよう努めます。

教職員の働き方改革と部活動については、今後、児童・保護者とともに部活動のあり方を考えていきたいと思ひます。